

猿新聞

編集責任者
山村 準

tel: 0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

名張鳥獣害問題連絡会

発行部数

【全戸回覧】
錦生地区：100部
赤目地区：150部
箕曲地区：70部
ひなち地区：205部
つつじが丘：430部

【全戸配布】
国津地区：380部
滝之原地区：125部
市民センター：90部
(9地区)
名張市議会：20部
名張市役所：30部

シカ生息域拡大と その背景

水稲対策

昭和後期以降、ニホンジカ（以下シカと表記）の個体数や分布域が激増し、農林業に深刻な被害及ぼし、全国的に大きな問題となつてい

います。増えすぎたシカが、今、日本全国で生態系や農林業、さらには私たちの生活にまで深刻な被害をもたらし、営農意欲の減退や耕作放棄地の増加にもつながり、被害額として数



シカによる皮剥被害 赤目町龍神山で

狩猟者負担が 大きい有害駆除

シカの仲間には繁殖力が高く、天敵がない現状では、増える一方、どうやら日本の山は、野生動物の楽園になつてい

生息域の拡大 その原因

シカの激増は、保護政策や拡大造林策が、大きく影響しているものと考えられて

います。増えすぎたシカが、今、日本全国で生態系や農林業、さらには私たちの生活にまで深刻な被害をもたらし、営農意欲の減退や耕作放棄地の増加にもつながり、被害額として数

といます。今後は、狩猟者の減少が予想され、個体数管理は益々困難な時代を迎える事になると考えられます。

年間2.5倍に増加しています。シカは学習能力が高く、猟期には鳥獣保護区へ逃げ込み、保護区の外に居るような行動も確認されています。

現在行っている防護柵対策・個体数管理・生息環境管理の「3つの基本要素」を再度、見直し

シカは反芻動物で、植物なら何でも食べます。広葉樹林や人工林の下層植生や落ち葉までも食べられ、シカの好まない植物だけが目立つようになり、自然の植生が衰退しています。

シカは反芻動物で、植物なら何でも食べます。広葉樹林や人工林の下層植生や落ち葉までも食べられ、シカの好まない植物だけが目立つようになり、自然の植生が衰退しています。

シカは寿命が長く、1歳以上の殆どのメスが毎年1頭出産。暖冬・少雪によって子ジカの死亡率の低下なども増加の原因。環境省の統計によると、1978年と2014年までの36

近年、全国的に捕獲数は増加傾向にあるにも関わらず、依然としてシカの被害は減少していません。言う現状があります。シカ対策は、被害を受けるときにその都度対処するだけでは、被害減少には繋がっていません。



シカによる水稲食害

約4分の3が、水稲被害で占めています。毎年、移植期（田植え）から分けつ期にかけて、シカによる被害や踏み倒しの被害が発生しています。1回の食害で発生した被害は、2回食べられただけなら生育は盛り返しますが、味をしめたシカは何度も同じ圃場の稲を食べに来ます。シカは「縄張り」を作らないため、農耕地や草地では、比較的大きな群れになり、繰り返し侵入するので、被害が甚大になります。

シカによる水稲の被害は、田植え直後の苗の引き抜きや食害、踏み倒し、収穫期の穂先食害などがあります。田植え直後の被害対策として、電気柵など柵の設置が行われていますが、田植えと同時に田植え要があることから、老人ばかりの中山間地域では被害対策を実施するのが非常に困難な状況です。

※個体数管理
個体数や密度など生息状況の調査を行い、その結果に基づき適切な管理目標を定め、それに従って適切な駆除を行うことが重要です。

※生息環境管理
鳥獣が嫌がる環境作りが重要です。無意識の餌付けを意図してなくすることが最も重要なことです。

※防護柵対策
防護柵はシカの生態や能力を見極め正しく設置することが重要です。

田植え直後の被害対策として、電気柵など柵の設置が行われていますが、田植えと同時に田植え要があることから、老人ばかりの中山間地域では被害対策を実施するのが非常に困難な状況です。

水稲対策

田植えの季節です。シカによる被害の

深水管理

今、滋賀県農業技術振興センターが研究を進めている水稲の深水管理栽培が注目されています。

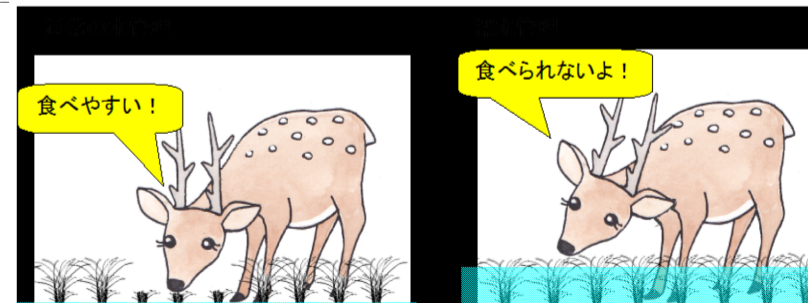
深水管理というのを嫌う習性があることから、苗を植えた直後から中干期まで水田の水を深くし

対策
近年、全国的に捕獲数は増加傾向にあるにも関わらず、依然としてシカの被害は減少していません。言う現状があります。シカ対策は、被害を受けるときにその都度対処するだけでは、被害減少には繋がっていません。

今、滋賀県農業技術振興センターが研究を進めている水稲の深水管理栽培が注目されています。

深水管理というのを嫌う習性があることから、苗を植えた直後から中干期まで水田の水を深くし

深水管理に取り組んでいく地域では、「シカは侵入していない」と言っているものが多いです。



地球温暖化 どうなる日本農業

近年、地球温暖化問題に、大きな関心が集まっています。

温暖化の影響を真っ先に受けるのは気象と密接な関わりをもつ農業など一次産業です。

今後、農業はどのような影響を受けるのでしょうか。

気温の上昇に伴う作物への影響は、計画していた収量や品質を達成できなくなるなど現在、既に影響が生じており、これまで培ってきた栽培ノウハウが通用しなくなる可能性は十分考えられ、温暖化への適応品種や技術の開発を早急に進める必要があります。

農産物の栽培適地は北上を続けています。このまま温暖化が進めば、数十年後には水稲栽培適地は、東北や北海道に移動すると考えられています。

東北以南では、水稲収量は減少し品質は低下すると考えられています。伊賀地方でもブランド米の産地ではなくなるばかりか、水稲栽培さえ出なくなるのではないかと危惧されています。

2062年代の日本列島の気温上昇とそれにとまなう農業への影響を果樹研究所が次のように解析しています。リンゴとみかんの栽培適地が、気温上昇とともに北へ移動するという解析データ。リンゴの栽培適地は、徐々に北上し北海道は、ほぼ全域が適地になる反面、関東以南はほぼ適地外。ウンシュウミカンの栽培適地は、東北の沿岸部まで拡大すると予測されています。米農家は高温障害で減産するため、植え付け時期を遅くするなどの対策を行っていますが、「遅植」にも限度があり先行きが心配されています。

耕作放棄地は増え、結果として、耕作放棄地は野生動物たちの棲家となり、被害が更に増えていくと言ふ悪循環で、農家に与える影響は計り知れないものがあります。

地球温暖化の影響で野生鳥獣の越冬可能な地域が拡大し、西日本や関東などで深刻な農業被害をもたらしているシカやサル、イノシシなどが分布域を北上させています。更に小雪のため多くの野生動物の生存率が高くなっています。特にイノシシは、絶滅と判断されてきた北東北でも、少雪の影響で激増し、多くの被害も報告されています。イノシシは脚が短いため、豪雪地帯には進出することができなかつたのですが、温暖化の影響で積雪が減り東北でも越冬しやすくなっています。

今後、東北や北陸地方は野生動物による農業被害が多くなる可能性が十分考えられます。また、東北はかつて、シカの「空白地帯」と言われていたが、近年では3倍にまで激増し農業被害や森林被害が増えています。

急速に進む気候変動で、食物が採れなくなったり、繁殖が出来なくなるなど、気候変動の速さに追いつけなく、数を減らす動植物が数多く出てきます。

現在進行している気候変動は速度が速いことが特徴といわれていて、多くの生物にとっては存続を脅かす危機となっています。

気候変動は地球の生態系の姿を大きく変える可能性があります。

人間は、地球生態系に生きる生き物の一種で、多くの生き物と相互に関わり合い豊かな生物多様性を構成している生き物なのです。環境白書では、過去50年間に観測された温暖化の大部分が人間活動が原因にあるということを示しています。

人間の排出量が世界全体の8割を占めている先進国が本気で取り組まなければ解決の道はありません。

気候変動は地球の生態系の姿を大きく変える可能性があります。

人間は、地球生態系に生きる生き物の一種で、多くの生き物と相互に関わり合い豊かな生物多様性を構成している生き物なのです。

環境白書では、過去50年間に観測された温暖化の大部分が人間活動が原因にあるということを示しています。

1997年、世界が交わした初めての「約束」京都議定書。採択された24年になります。

世界全体の温室効果ガス排出量は、減らすどころか増加傾向です。

何をか言わんやです。地球温暖化問題は、世界の問題。温室効果

ガスの排出量が世界全体の8割を占めている先進国が本気で取り組まなければ解決の道はありません。

気候変動は地球の生態系の姿を大きく変える可能性があります。

人間は、地球生態系に生きる生き物の一種で、多くの生き物と相互に関わり合い豊かな生物多様性を構成している生き物なのです。

環境白書では、過去50年間に観測された温暖化の大部分が人間活動が原因にあるということを示しています。

1997年、世界が交わした初めての「約束」京都議定書。採択された24年になります。

世界全体の温室効果ガス排出量は、減らすどころか増加傾向です。

何をか言わんやです。地球温暖化問題は、世界の問題。温室効果

ない柿や栗の伐採を呼びかけていますが、「先祖伝来の樹」といふ思いがネックとなり、伐るのを躊躇う人が多くいます。

放任果樹は、サルをはじめ、アライグマ、ハクビシン、カラスなど、さまざまな野生鳥獣の餌となっているのが現状です。

また、隣接する民家に落ち葉や日陰になる

放任果樹の対処を獣害対策として伐採して「ハイ終わり！」と考

えるだけではなく、放任果樹を地域の資源と捉え、管理や収穫が楽に行えるよう低樹高に仕立て、省力化を図る栽培方法を地域みんな

で考えて見てはどうでしょうか。

所有者不明の柿の木などの伐採に困っている地域もあるようですが、所有者不明の放任果樹伐採には民法上ト

など迷惑を懸けているかも。

放任果樹の対処を獣害対策として伐採して「ハイ終わり！」と考

えるだけではなく、放任果樹を地域の資源と捉え、管理や収穫が楽に行えるよう低樹高に仕立て、省力化を図る栽培方法を地域みんな

で考えて見てはどうでしょうか。

所有者不明の柿の木などの伐採に困っている地域もあるようですが、所有者不明の放任果樹伐採には民法上ト

注意が必要です。

ラブラなよう十分な

アの花の咲く夏頃だったのですが、近頃では比奈地ダム周辺への出没は、恒常的になって

います。令和3年3月頃から名張A群の出没は比奈地ダム周辺に集中しています。

群れは季節により利用する地域を変えます。

餌が豊富で安全であれば、彼らには魅力

的な環境となり集中利用度が高まります。利

用度は季節的な利用から通年利用に変化してゆきます。

名張A群では比奈地ダムへの依存度が高ま

アの花の咲く夏頃だったのですが、近頃では比奈地ダム周辺への出没は、恒常的になって

います。令和3年3月頃から名張A群の出没は比奈地ダム周辺に集中しています。

群れは季節により利用する地域を変えます。

餌が豊富で安全であれば、彼らには魅力

的な環境となり集中利用度が高まります。利

用度は季節的な利用から通年利用に変化してゆきます。

名張A群では比奈地ダムへの依存度が高ま

(左図参照)

名張B群でも同じこ

とで、出没は伊賀竜口・

西谷・長坂(赤目滝)

周辺に限定されていて、

両群とも遊動域は極端

に狭くなっています。

持続的に、両群の行

動域を把握し群れの行

動特性をつかむことが、

今後の対策の重要なポ

イントとなります。

猿の服

猿が捨てる柿の話

奈良県東吉野村観光農園に何度か柿狩りに行ったことがあります。名張市や全国でも猿による柿の被害が多発しているとの話がありますが、広大な山に、何千本の柿の木が植わっている観光農園の方に、「こんなに柿の木があって猿による被害はないのですか？」と聞いたところ意外な答えが返ってきました。この辺は猿による被害は全くありません」とのことでした。きっと猿が住む山林には、生活に必要なだけの食べ物になっているのだと思いました。私の子どもの時は、今みたいにお菓子などがなく、柿や梨などがおやつ替わりでしたが、最近の子供たちは、木になっている柿には

目もくれないみたいです。有名な猿がカニの柿を持っていくお話を、猿は柿を一口かじると、いろいろな動物がその柿を取りにくる。その場で食べる動物は少なく、タヌキなんか何度か来て、どこかに運んで行きます。なにか捨てられた柿を集めて熟すのを待つみたいです。そうすると甘くなりますから。カラスがものを隠すのは有名だけど、哺乳類もそんな工夫をしているんですね。日頃評判の悪い猿ですが、昔から他の動物たちの生命維持のために約になっていることもあるそんな事を最近考えています。

寄稿：田北 利治さん

何をか言わんやです。地球温暖化問題は、世界の問題。温室効果

放任果樹の対処を獣害対策として伐採して「ハイ終わり！」と考

えるだけではなく、放任果樹を地域の資源と捉え、管理や収穫が楽に行えるよう低樹高に仕立て、省力化を図る栽培方法を地域みんな

で考えて見てはどうでしょうか。

所有者不明の柿の木などの伐採に困っている地域もあるようですが、所有者不明の放任果樹伐採には民法上ト

注意が必要です。